

JAおおいた JGAP団体認証の取組

JAおおいた

営農部 営農企画課 城向 孝洋

JAおおいた 概要

平成20年6月1日

大分県内の16JAの合併により大分県農業協同組合 発足

平成28年4月1日

16地域事業部制から5エリア事業部制へ移行

組合員数※

正組合員 59,981人

准組合員 45,004人

合計 104,985人

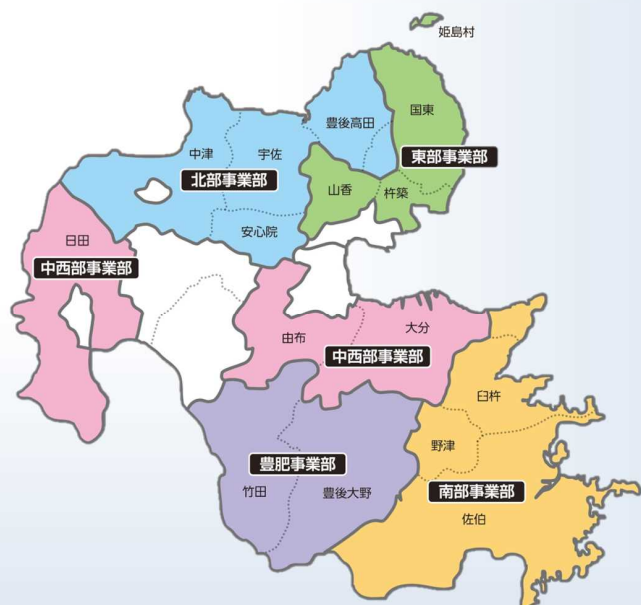
職員数※

男性職員 1,271人

女性職員 842人

合計 2,113人

※平成27年3月31日現在



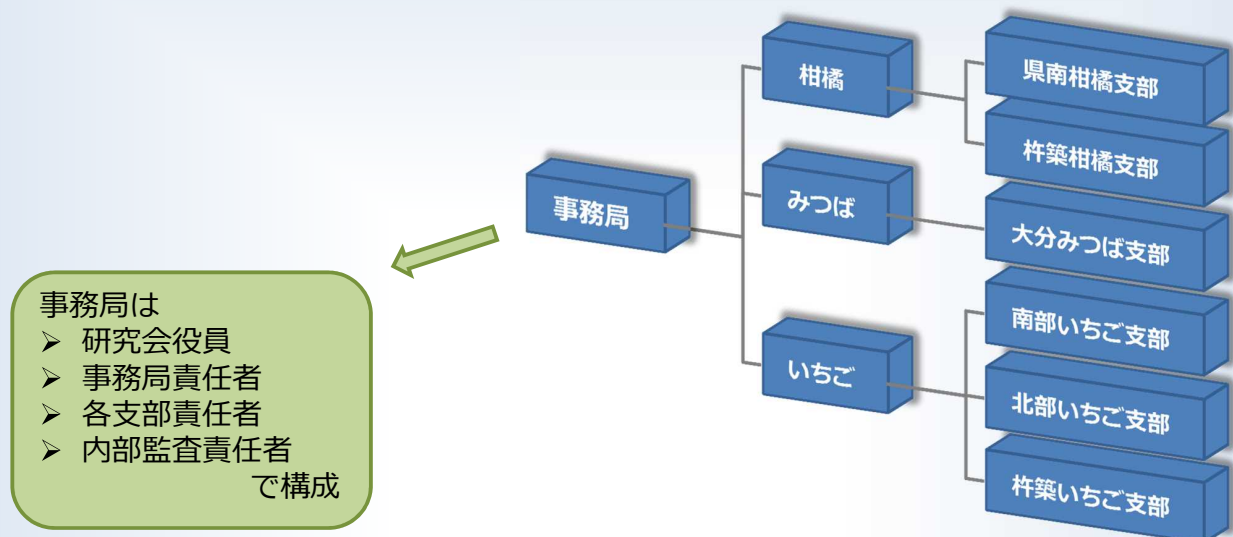
JGAP認証取得の流れ

平成23年6月 平成24年10月	認証に向けた準備開始 「南部共販いちご部会GAP研究会」JGAP団体認証取得
平成25年4月 平成26年2月	新たに2団体の認証に向けた準備開始 「JAおおいた大分事業部みつば部会」 「JAおおいた柑橘研究会GAP部会」JGAP団体認証取得
平成27年4月 平成27年9月 平成28年2月	3団体を統一団体にする準備開始 「JAおおいたGAP研究会」設立総会 「JAおおいたGAP研究会」として団体認証取得

団体の統一理由

- ⇒団体運営の効率化（事務局運営、各種研修会、内部監査等）
- ⇒**必要経費の圧縮**

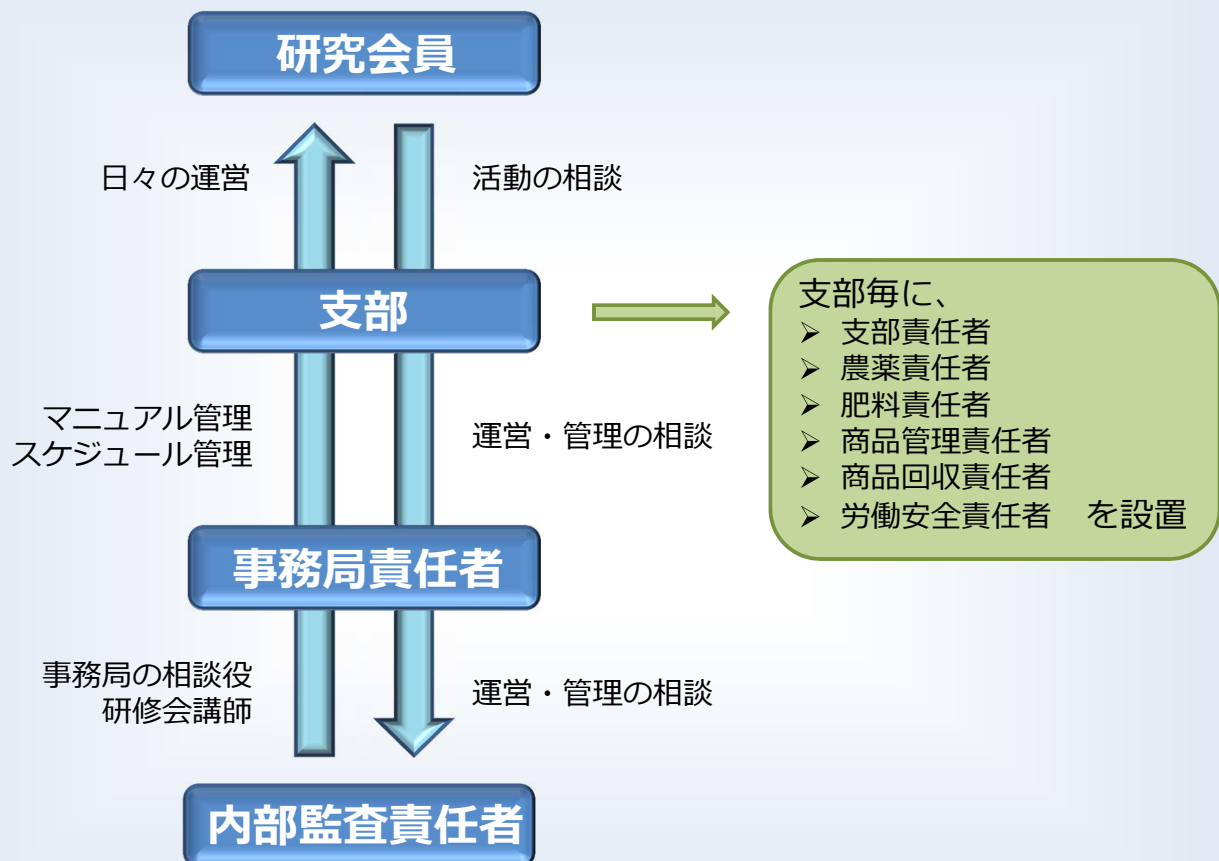
JAおおいたGAP研究会 概要



会員数 69農場

会員のほとんどが60歳以上の農場責任者で、
夫婦もしくは一人で農業を営む農場

内部監査員資格取得者6名 指導員資格者（内部監査補）12名



メリット・デメリット

メリット

内部監査・審査を、別々に行うより効率的に行う事が出来る
各種経費の圧縮ができる（一人当たりの負担額減）

担当者一人で全てを行う訳ではなく、役割分担ができる

団体の仕組み作り（マニュアル・ルール等）次第で、
JGAP**認証のための**知識習得を農場が意識的にする必要は無い
（団体ルールの遵守徹底、GAP取組の研修会への参加は行う）

デメリット

団体構成が大人数・広域的になり、全員集会等が困難になる
（支部別・品目別研修等に対応）

事務局（各支部長含む）のGAPの理解、JGAP認証制度の理解が重要

導入にあたり注意したこと

現状を整理し、ルール（マニュアル）を決める

可能な限り現状を生かし、ルールを設定する
あいまいになっているルールは整理する

認証取得が目的ではない。継続して取り組む事が大事

最もコストが低く、最も効率的な ルールを考える

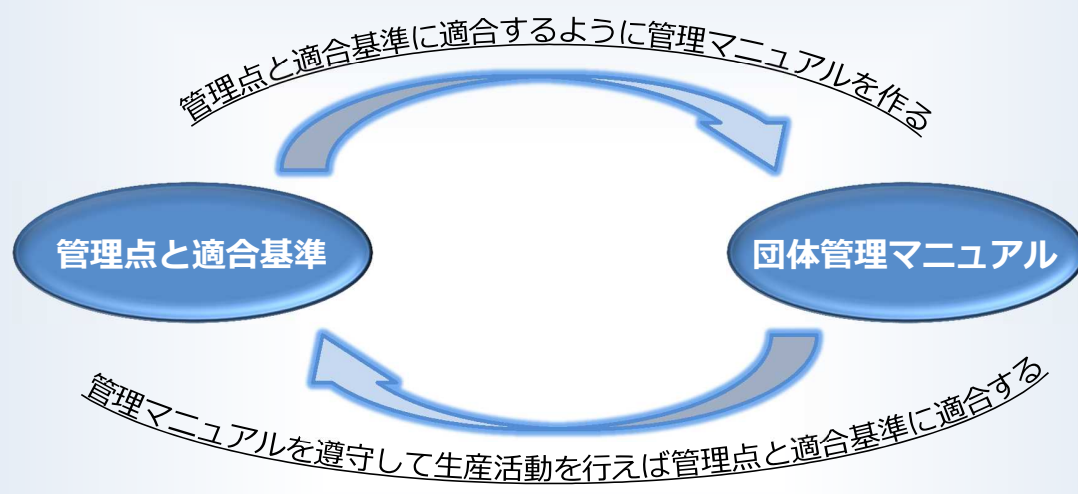
リスク対策を実施しながら**実行可能なルール**にしないと離脱者を生む

実行可能なルールとは

出来る人だけがやればいいという訳ではなく
「やってみようかな」と興味を持ったより多くの農場が取り組める
リスクは回避しながら、作業効率を出来る限り犠牲にしない
著しい作業効率の低下は実行不可能（継続不可能）

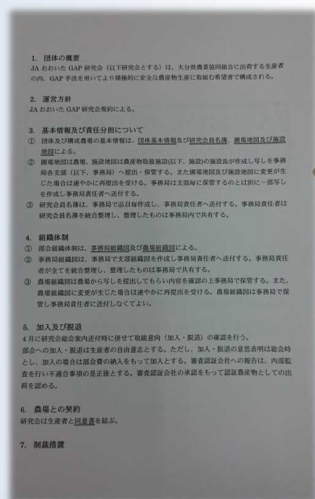
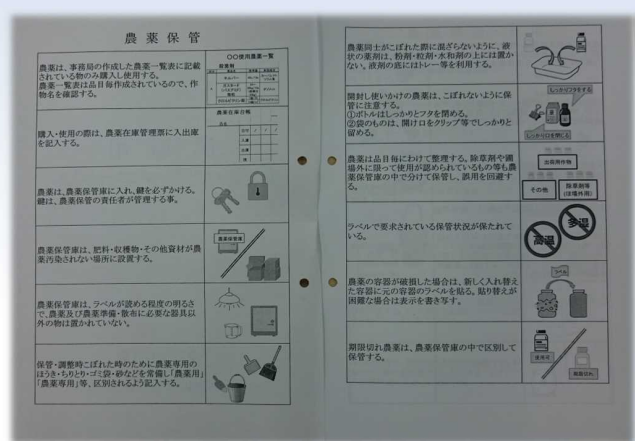
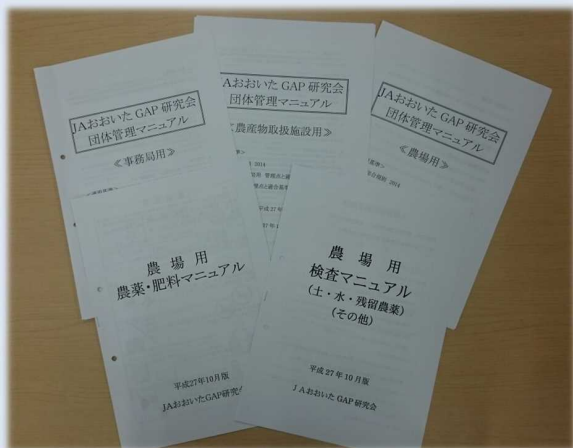
生産者への周知時に注意したこと

団体管理マニュアルを作成する



農場へは管理点と適合基準を使った説明は行わない

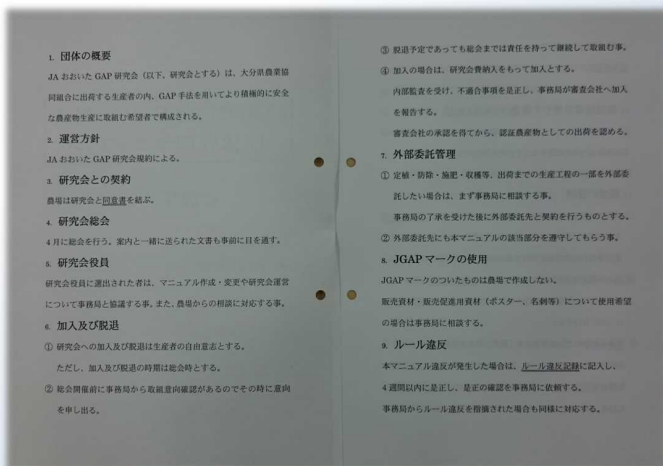
冊子を見ただけで内容に関係なく「面倒くさそう」と言う第一印象を防ぐ



← 事務局用

農場用 →

高齢の方が多いので農場用は文字を大きく



生産者への最初の説明

資料は配布しない

マニュアルを読んだり、記帳の説明は後回し
「面倒くさいなあ」という先入観を無しにして取組目的を考えてもらう

どのような問題(リスク)があるのか？
どうやって問題(リスク)を回避するのか？

文字で説明しない 写真を使って説明する

良い事例・悪い事例の対比

良い工夫・良いアイデア

実際に起きた事故事例



問題(リスク)は無くさなければいけないが
具体的な改善方法「〇〇しなければいけない」と伝えない

どちらが良いと思うのか？

自分の農場は現在どうなのか？

自分の農場はどうあるべきか？

自分の農場はどうなりたいか？

自分の農場をイメージして
自分で考える、自分で判断する

導入にあたり注意したこと②

やらされてる感じになると・・・
作業効率を無視した取組ばかりになると・・・

今までに比べすごく効率が悪い
普段の作業に無理が生じる

苦痛

ルールを守らない(守れない)
取組を辞める

ある程度導入が出来たら

団体管理マニュアルを配布する 自己点検用チェックリストを配布する

内容の説明を行うが、すでに出来ていることばかり

警戒感を抑えて
無意識で始める

自分で考え実行

気が付いたら出来ている
自信・自覚

記帳の説明をする

記録は残すが、**手書き量はギリギリまで削った様式**を準備
リストと記号制の記帳様式

記帳が難しくない物から説明する

なじみのある物や必要性がわかりやすい物
事務局にとって説明しやすい順でも良い

何のために記録をするのか

イメージする事、考える事に慣れてきてるので
記帳の意味を考えてもらう

**性格にもよるが、苦手な人が多い（最大の難関かも）
取組に慣れてきてから実施する**

スムーズな導入が出来たポイント

事務局体制を整備する

導入準備の時点から、担当者単独でなく**チーム**で動く
事務局(担当者)も負担が集中しすぎてしまうと無理が生じてくる
事務局の人事異動リスクの低減

大分県との連携

設立準備・生産者説明の段階から連携
巡回や内部監査、審査の同行
栽培暦、研修会資料の準備協力

} 取組協力

大分県によるGAP研修の開催、招致
GAP取組で発生する費用の一部補助

} 取組サポート

取組を維持するために

初認証時・各審査・総会等があった時には、積極的に広報

JAおおいたの広報誌（組合員向け、職員向け）
地元新聞社、農業新聞等

視察依頼も出来る限り対応

他県の県職員、市場関係者、他県作物部会

色んな人に取組を知ってもらうことで活動がしやすくなる

サポートしてもらいやすくなる（JA内部、県、各関係機関）

色んな人が知っていることで会員のモチベーションにつながる

ご静聴ありがとうございました